

1. 粗大ごみ収集の検討

(1) 粗大ごみ収集の沿革

(2) 粗大ごみ事前申込制の現状

(3) 粗大ごみの排出状況

(4) 粗大ごみ収集のあり方検討について

2. 有料指定ごみ袋の検討

3. 第5回以降のごみ処理恵庭モデル検討会の進め方



1. (1)

粗大ごみ収集の沿革

粗大ごみ収集の沿革

年度	出来事
S 3 8	直営によるごみ収集開始
S 5 4	可燃ごみ及び不燃ごみの分別収集開始
S 6 1	粗大ごみ収集開始
H 0 5	ごみ収集全面民間委託
H 2 2	家庭ごみ処理有料化 粗大ごみ一個あたり一律100円のごみ処理券シール
H 2 5	粗大ごみふれあい収集開始
H 3 1	粗大ごみコールセンター受付開始(事前申し込み制) ごみ処理場破碎機導入 粗大ごみふれあい収集廃止
R 0 2	ごみ処理手数料改定 → 粗大ごみ一律100円から種類別(100円～900円)の料金体系に変更 可燃性粗大と不燃性粗大に区分 ごみ処理券400円券販売開始(100円券・400円券)

※令和4年度廃棄物処理の概要 p 45より

粗大ごみのコールセンター導入背景

背景

平成22年度家庭ごみ処理有料化の際に以下の内容について検討されていた。

- ・個別の単価設定はわかり難いといった問題。
- ・市民からの問い合わせ対応増に伴う業務量の増。
- ・コールセンター方式導入に伴う経費の増。
- ・事前申し込み制による利便性の低下などを理由として一律100円とした。

平成31年3月まで戸別収集

- ・不燃の日と同日に戸別収集
- ・月1回収集
- ・事前申し込みは不要
- ・一点あたり一律100円

※月1回収集となった背景

平成19年にプラスチック容器包装の分別収集に伴い、資源の収集回数を増やしてほしいという市民要望を踏まえ、資源の収集日を増やし不燃(粗大)の収集日を月2~3回から月1回に変更。

粗大ごみのコールセンター導入背景

平成31年3月まで戸別収集

- ・ 不燃の日と同日に戸別収集
- ・ 月1回収集
- ・ 事前申し込みは不要
- ・ 一点あたり一律100円

※月1回収集となった背景

平成19年にプラスチック容器包装の分別収集に伴い、資源の収集回数を増やしてほしいという市民要望を踏まえ、資源の収集日を増やし不燃(粗大)の収集日を月2~3回から月1回に変更。

平成31年4月から事前申し込み制

- ・ 不燃の日とは別日に戸別収集。
- ・ 申込後に収集するが、地区別に収集曜日がおおむね決まっている。週一回。
- ・ 事前に申し込みが必要。
- ・ 令和2年度から種目別で100円~900円の料金単価設定

導入背景

それまで粗大ごみは不燃として全量埋め立て処理されていた(鉄くずなどを除く)。令和2年度焼却施設稼働に伴い、粗大ごみについても品目ごとに適正処理し、**ごみ減量化を図るため『可燃性粗大ごみ』と『不燃性粗大ごみ』に分けて収集する必要**があった。また、**手数料変更に伴い、品目ごとに手数料を市民に伝える必要**があった。

市民に粗大ごみについて分別や手数料の判断を求めるのではなく、事前申し込みの際、聞き取りにより判定し、最適な経路により処理先へ搬出することができる。

粗大ごみのコールセンター導入後の検証

導入後

- ・粗大ごみの総排出量は大幅に減少。
- ・コールセンターの収集件数は計画値の約半分。
- ・可燃性粗大ごみの排出量は計画値の約4分の1。
- ・申し込み時に手間がかかることによる負担増。
- ・パッカー車で積載できなかった収集不適物が一部収集可能になった。

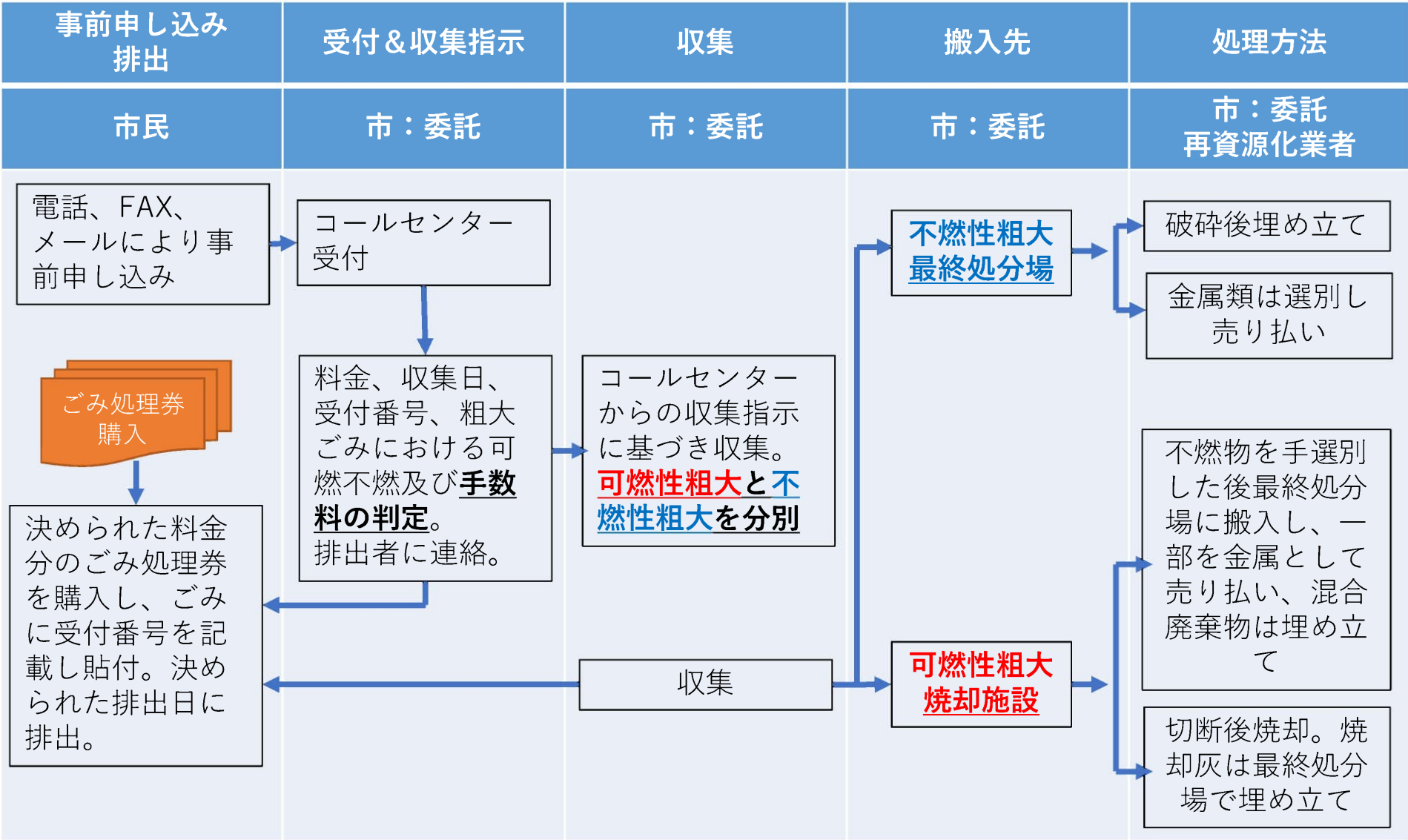
まとめ

- ・粗大ごみは申込みが必要であるため、排出する際、従前より制限があることから粗大ごみの総排出量は大きく減少した。直近では微増となっていることから、コールセンター方式が市民に浸透していることも要因の一つとして考えられる。
- ・可燃性粗大ごみは焼却処理することにより、ごみの減量化を狙っていたものの、実際には混合廃棄物が多く可燃性粗大は計画量を下回っている。
- ・収集不適物が一部収集可能になったことにより利便性が向上したものの事前申し込みの煩わしさによる負担増やコストが増加した。

1. (2)

粗大ごみ事前申込制の現状

粗大ごみの処理フロー



●粗大ごみを分別収集することで、適切な処理が可能となり、ごみの減量化につながる

粗大ごみの収集状況

コールセンター方式
導入検討時の計画値

	収集件数	収集個数
日	83.3件	166.7個
月	1,666.7件	3,333.3個
年	20,000件	40,000個

令和2年度

	収集件数	収集個数
日	32.8件	87.0個
月	698.8件	1,855.5個
年	8,386件	22,266個

令和3年度

	収集件数	収集個数
日	35.7件	98.8個
月	761.9件	2,106.8個
年	9,143件	25,281個

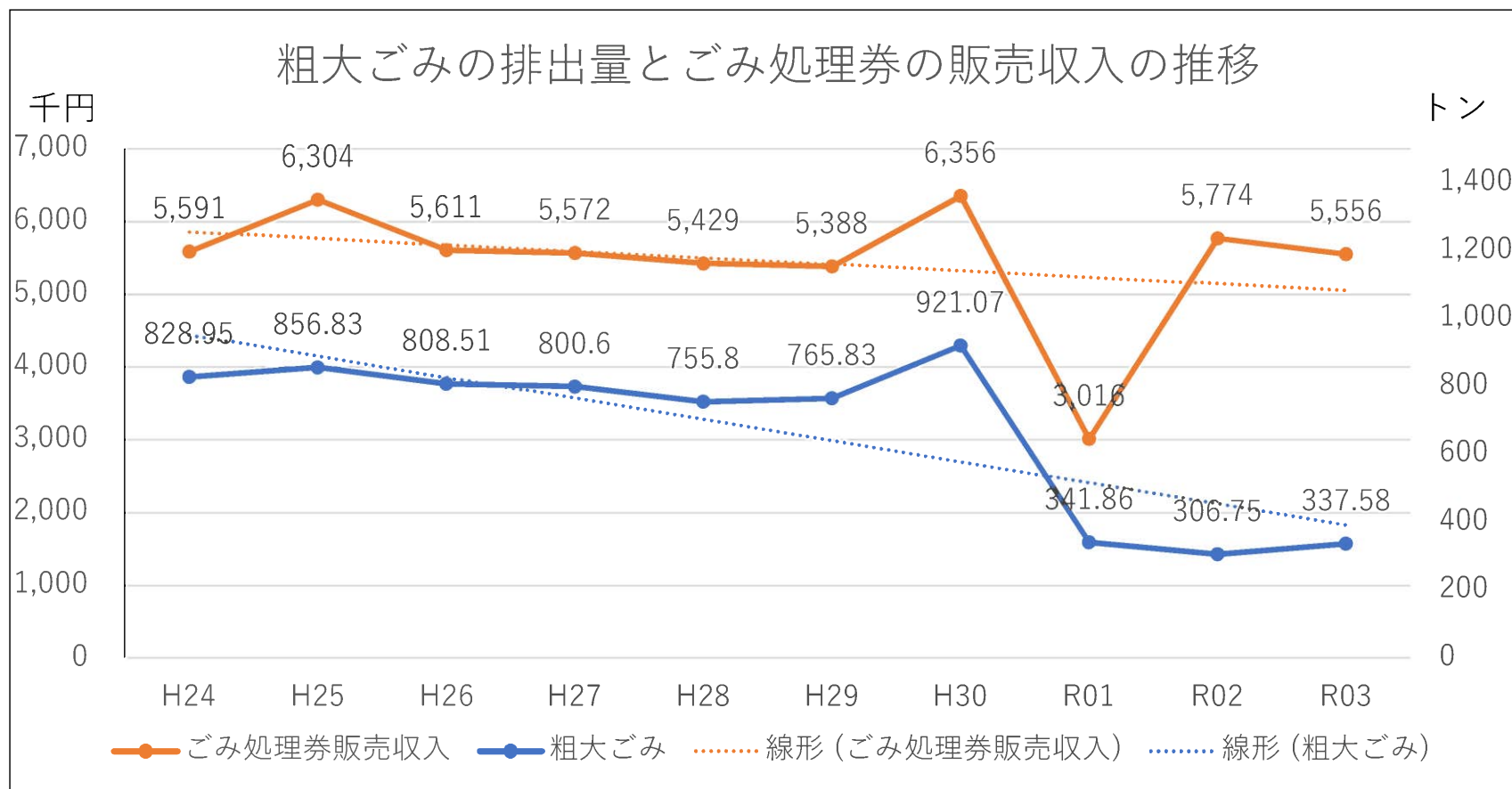
想定約半数

粗大ごみの出し方が市民に浸透してきたことにより、実績は利用状況が微増。ただし、当初の計画値と比較すると、想定より少ない結果となっている。

1. (3)

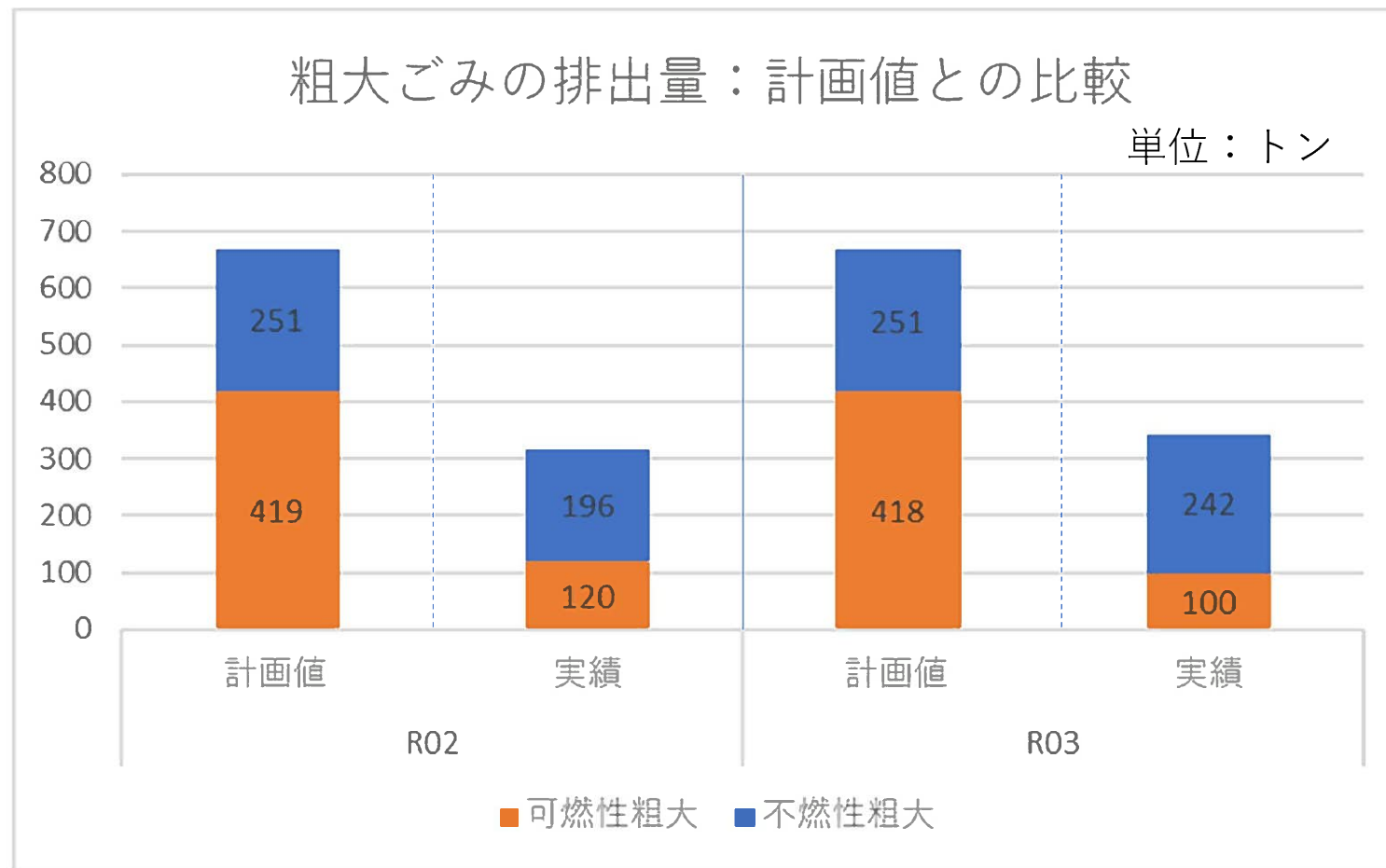
粗大ごみの排出状況

粗大ごみの排出量とごみ処理券の販売収入の推移



- 平成30年度はコールセンター方式導入前年度であり、市民が事前予約制に煩わしさを感じたことが考えられ、駆け込み排出する動きがみられ、排出量及び収入が増。
- 令和元年度は、事前申し込み制が開始し、排出量及び収入が大幅に減少。
- 令和2年度にごみ処理手数料が一律100円から品目毎に100円～900円に改正したことにより、収入増。
- 全体的に、粗大ごみの排出量及び収入は比例し、減少傾向である。

粗大ごみの計画値との対比



- ・ 恵庭市一般廃棄物処理基本計画の計画値と排出実績を比較すると、粗大ごみ総量は計画値に対して実績は約2分の1。可燃性粗大は計画値に対して約4分の1。不燃性粗大は概ね計画値どおり。
- ・ 可燃性粗大を分別して焼却処理し、ごみ減量を狙いとしていたが、想定よりも少ない状況。

1. (4)

粗大ごみ収集のあり方検討 について

粗大ごみコールセンター方式メリットデメリット

		コールセンター方式	不燃回収日収集
市民	メリット	料金が明確(コールセンターで判断)	申込み不要・電話連絡の煩わしさが ない
		1～2週間以内に収集可能	
	デメリット	電話連絡が煩わしい・利用しにくい	月一回の不燃収集日まで待たな ければならない
		時間的制約がある 平日9:00～17:00の受付	収集品目が減る (例:スプリング入りマットレ ス)▶パッカー車のため
		料金間違いの場合収集されない 自分で料金を判断しなければなら ない	
市	メリット	収集ポイントが事前に分かり、収集が効率的 になる	コールセンター委託費用がなくな る 年間約800万円のコスト削減
		可燃性粗大ごみは、焼却処理できる(年間 100t強)。ごみ減量化。	
	デメリット	コールセンター委託費用がかかる 年間約800万円のコストが発生。	全てごみ処理場にて埋立処理とな る(年間100t強)申込みをする煩 わしさがなくなるため、ごみの排 出量が増えることが想定される。

コールセンター方式の課題と解決策

課題

電話連絡の煩わしさ

受付時間の制約
(平日9時~17時)

さらなるごみの減量
(可燃不燃の分別)

コストの抑制

解決策

アプリやAIチャットボット、マイナ
ポータル、インターネットによる24
時間受付

排出された粗大ごみのリユース・リ
ペアの推進、再資源化ルートの確立

地区ごと週一回収集から月一回収集
へ変更

コールセンター方式を廃止して従前
の不燃回収日収集に変更

不燃回収日収集の課題と解決策

課題

パッカー車収集のため収集品目が減る

月一回の不燃収集日まで待たなければならない

料金を自分で判断しなければならない

ごみの減量

コスト抑制

解決策

平ボディでの収集を新たに追加する

収集回数を多くする

料金設定を種目別から一律同額に変更

コールセンター方式(事前申し込み)による分別収集と適正処理

収集ルート最適化

粗大ごみの収集の在り方検討

★市民ニーズや恵庭市ごみ処理恵庭モデル検討会を踏まえ、
恵庭市の実態にあった収集体制の在り方を検討

検討案

- (1) コールセンター方式による課題を解決しつつ継続
 - ・インターネット等による24時間受付
 - ・地区ごとに週一回の収集体制を月一回とする
 - ・粗大ごみのリユース・リペア事業の検討

- (2) 不燃収集日と同時回収に変更
 - ・コールセンター方式の廃止
 - ・料金の判断を不要とするため一律の料金に変更
 - ・収集経路の最適化

2.

有料指定ごみ袋の検討

ごみ袋の容量種 近隣市の状況

近隣市有料指定ごみ袋比較

恵庭市		千歳市		北広島市		札幌市・江別市・石狩市	
燃やせるごみ	5L	燃やせるごみ	5L	普通ごみ	5L	燃やせるごみ 燃やせないごみ 共通	5L
	10L		10L		10L		10L
	20L		20L		20L		20L
	40L		40L		40L		30L
燃やせないごみ	5L	燃やせないごみ	5L	破碎しないごみ	10L		10枚1組
	10L		10L		40L		
	20L		20L				
	40L		40L				
生ごみ専用	3L	プラスチック容 器包装	10L	生ごみ専用	3L		
	6L		20L		5L		
	12L		40L		10L		
5枚1組		10枚1組		10枚1組			

ごみ袋の売れ行き及び製造状況

■令和3年度のごみ袋等受注枚数

種類	容量種	受注枚数(単位:枚)	種類別割合
可燃	5L	92,950	4%
	10L	301,050	13%
	20L	1,070,650	45%
	40L	932,900	39%
不燃	5L	55,550	25%
	10L	40,950	19%
	20L	62,500	29%
	40L	59,100	27%
生ごみ	3L	781,750	60%
	6L	412,700	31%
	12L	117,400	9%
ごみ処理券	100円	40,210	92%
	400円	3,345	8%

■令和3年度のごみ袋製造状況

種類及び容量種		1枚当たり製造単価(円)	製造枚数(枚)	手数料単価(円)	手数料-製造単価
燃やせるごみ用	5L	10.0	180,000	15	5.0
	10L	8.0	750,000	30	22.0
	20L	10.6	1,500,000	60	49.4
	40L	14.2	1,220,000	120	105.8
燃やせないごみ用	5L	7.0	109,000	20	13.0
	10L	8.0	117,000	40	32.0
	20L	10.0	264,000	80	70.0
生ごみ用	40L	13.0	484,000	160	147.0
	3L	7.0	870,000	6	-1.0
	6L	7.6	505,000	12	4.4
ボランティア袋	12L	11.0	125,000	24	13.0
	ポイ捨て 草木専用	16.0	25,000		
		16.0	43,000		

令和3年度のごみ袋等受注枚数では、全体の10%未満のニーズが低いと考えられる容量種として、『可燃5ℓ』『生ごみ12ℓ』『ごみ処理券400円』などがあげられる。

ごみ袋の容量種の検討

ごみ有料化及び有料指定ごみ袋の導入により、ごみの減量化が図られた一方で、それ以前のごみ袋より小さい容量種を用意することで、ごみの減量へと誘導する狙いもあったが、効果があったか不明。現時点の市民の利用状況や市民ニーズを踏まえつつ、製造コストを抑えたごみ袋の容量種を検討。

検討案

- 可燃袋5L、生ごみ12Lの廃止。
- 他の容量種の妥当性も検討。
- ごみ袋の素材も脱炭素に配慮したものとする。

3.

第5回以降のごみ処理恵庭モデル検討会の進め方

第5回以降のごみ処理恵庭モデル検討会の進め方

5回 ワークショップ
市民のごみ減量、適正分別、適正排出への行動変容策

6回各テーマ間の関わり、まとめ

7回から9回上記ごみ処理体制での最適な手数料の検討

10回提言書（素案）についての意見交換